

せいきょう

# くらしの助け合いニュース

\* 100号 \*

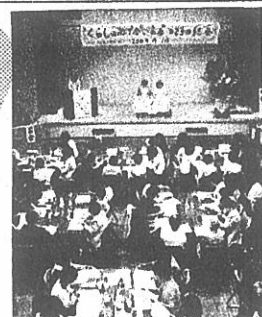
〒603-8352  
京都市北区平野宮北町35  
くらしの助け合いの会  
TEL (075) 465-6886  
FAX (075) 465-6882



## 第23回総会特集号



2008年6月10日(火) ハートピア京都において「第23回総会」が144名、(8団体9名の来賓を含む)の出席で開催されました。午前中は議事を中心に質疑応答意見交換がおこなわれ、昼食時には“音の風”ミニコンサート。午後はテーブルごと「あり方合同検討委員会」中間報告について意見交流をしました。



### 「考える会」のお知らせ

「考える会」は今後の「助け合いの会」のあり方や方向について、また活動内容や財政について「会」独自で会員同士が論議する場です。ここの意見は「あり方検討委員会」にも反映されるものです。皆さんの参加をお待ちしています!!

せいきょう会館4F第一会議室  
10:30~12:30

9月 9日(火) 11月11日(火)  
1月14日(水) 3月18日(水)



### 福祉の活動と事業の連携を 理事長 小林智子

くらしの助け合いの会が、たくさんの方の地域のネットワークの中で広がってきているのを感じます。ついに後期高齢者医療制度も始まり、介護保険制度の後退は会の活動にも大きな影響を与えています。報酬の問題もあり、福祉に従事するヘルパー不足も深刻です。そんな中で助け合いの会はまさに「頼もしい隣人たらん」を実践されています。総代会の中でも、総合的に高齢者のくらしを支えるサポート事業を願う発言が多く出ていました。午後に検討をさせていただく「あり方合同検討委員会」の中間報告は「助け合いの活動」のことだけでなく、大きなテーマを抱えています。誰もが自分らしく地域で安心して暮らしていけるために、生協に求められているもの。「助け合い」「福祉事業」「くらしのサポート事業」を通して、福祉の活動と事業の連携を目指していきたいです。

### 納得した上での検討を 福祉担当理事 馬淵博子

1年に1回、みんなの志を確認される場。大切なことは利用者も活動者も職員も同じ目線で会を考えていくこと。「協同」「共助」の心を受け継ぐ「助け合いの会」を次の時代にどう伝えていくのか。現実の社会の厳しさの中で、生協の役割が求められています。活動している方々が納得した上での検討を、しっかりと確実に一歩一歩進めていきたいと思えます。会の発展と皆さまのご健康を祈ります。

### 来賓の方々のメッセージ



- 京都府社会福祉協議会 土田昭一さま  
25市町村の社協で住民とのつながりを強めていく必要を感じています。災害ボランティアセンターを立ち上げ、災害に強い街づくりを目指すために、ぜひこれから連携をさせていただきたい。
- 京都市福祉ボランティアセンター 所長 平田和洋さま  
助け合いの会とは立ち上げたのが同期、介護保険制度ができる前には会の学習会にも参加しました。助け合い制度の保管をされながら、サービスでは得られない活動の大事さをこれからも末永く続けていただくためにも、連携をさせていただきたい。
- 財団法人 京都SKYセンター 後藤由紀子さま  
平成2年に設立。府内4500名の元気のシニア会員がいます。助け合いの会のような気持ちを持って、今後はボランティア登録制も始めたい。ノウハウを知りたいし、連携を取り合いたいです。
- 社会福祉法人 七野会 長橋司朗さま  
介護保険ではやりたくてもできないことが多く、保険外でやるしかない状況。ヘルパーだけでは支えられない、実態に合わせたサービスを、事業所と連携してやっていければと思います。
- コープこうべ 生活文化福祉部 松永屋子さま  
先日25回目の総会を終えました。こちらも2015年に向けて「あり方検討」を進めています。男性会員も増えてきました。変えたくないものを変えないためにも、変える勇気を持ちたいです。

- 大阪淀川市民生協 助け合いの会 畑 洋子さま  
こちらは第4回総会を迎えます。石の上にも3年をやっと過ぎたところ。これからも交流を持ちながら勉強させていただきたい。
- くらしと協同の研究所 事務局 大角尚子さま  
6月のシンポジウムでは「都市社会のつながり」をテーマに福祉関連の分科会も持ちます。介護保険だけでは支え切れない現状の中で、助け合いの活動が利用者にとって一番良い状況で関わられることを考えておられる姿勢を尊敬しています。
- 京都生協 専務理事 山本祐司  
京都生協の半分以上の歴史を刻み、「頼もしい隣人たらん」「困ったときにはお互いに助け合う」。その心を受け継ぎ形にしてきた「助け合いの会」は京都生協の宝だと思っています。「あり方合同検討委員会」の中間報告を論議していただき、できる限りの支援をしていきたい。生協はもっとやさしく、もっと強く。
- 京都生協 福祉事業部 酒井辰哉  
事業部は8年目。昨年は奨励のデイサービスの報告をしました。地域の人たちにお風呂を解放する取り組みも進めています。醍醐山科事業所は、7月1日付で事業指定が下りる予定。事業の中で学んだことを、組合員とともに広めていきたいです。

\*他、「京都市福祉ボランティアセンター」前田昌恵さま、「大阪淀川市民生協 助け合いの会」内藤玲子さまの出席がありました。なお寄せられたメッセージは21通でした。

